

国語解答用紙 (全二枚) その一

受験番号

氏名

一

問一

①	レンサ	連鎖
②	ドウサツ	洞察
③	センサイ	繊細
④	ミッセツ	密接
⑤	ソウグウ	遭遇

集計点

得点

問二

(一)

両者とものに、無自覚な自他の混同ではなく、
相手との違いを認識し、共通する部分を見出
した上での、自分と相手との同一化・同一視
が生じている点。

10

20

(二)

認知的共感においては、自他を明確に区別し
たうえで共通性があることを認識するため、
自らの体験に基づく共感の内省が可能である
が、情動的共感においては、強い自他の混同
が生じ易く、共感の内省が困難である点。

10

20

100

問三

他人の心中を想像・推論することで見
合と、想像や推論を介さず、相手の様子を見
て即座に生じる場合。

10

20

問四

自己了解がなく想像による相手の感情理解も
不可能なため、相手と同一化し混同した状態
にある。た幼児期の共感から、成長に使った他者
の共感と言語化によって自己了解が可能にな
り、感情の混同が少なくなるという経験の蓄
積によって、大人の共感が形成されていく。

10

20

120

国語解答用紙 (全二枚) その二

受験番号

氏名

集計点

三

問一

A 私は思っていました

C ますますり徹していますと

E あまり親しくはつきあえまい

他人を非難し、得意になっている人を避けることができず、顔をつきあわせて交流していた

人に非難されなかったためにも、自分のことをわかってくれそうもない人には意見せず、ひたすら愚痴か者を演じること。

問三

問四

10
20
気がどって近づくににくい様子であり、物語や歌を好んで風流ぶって、人を見下したような人物だと思っていたが、会ってみると非常におっとりした人だという認識に変化した。

80

三

問一

A つひに

イ ここにおいて

評判の高い侍の弓の技量を目の前で見たが、尊に聞くほどの腕前ではないな。

問二

問三

(いんげん)
ひとのげんははたしてしげざるにたらざるのみ。(と。)

荒れ狂っていた敵の暴徒たちは、信長の馬前で弓を引く侍の気迫あふれる優れた働きによって逃げ帰った。

問四

問五

10
20
侍の、平時の功名には見向きもせず、余力を残し、本番の戦に照準を合わせて、自らの優れた技量を発揮した行動。

60

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□